

## 第31回 保守管理検討会 議事録

1. 開催日時: 平成 29 年 11 月 2 日(木)10:30~11:40
2. 開催場所: 日本電気協会 C 会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)  
出席委員: 鈴木主査(中部電力), 大平(四国電力),  
金子(日本原子力研究開発機構), 川瀬(北陸電力),  
天間(東北電力), 中廣(関西電力), 長谷川(日本原子力発電),  
峯村(東芝エネルギーシステムズ), 和地(三菱重工業) (計 9 名)  
代理出席者: 齋藤(電源開発・梅岡代理), 西野(北海道電力・大崎代理),  
品川(中国電力・桑田代理), 花木(日立 GE・西澤代理),  
末光(原子力安全推進協会・堀水代理) (計 5 名)  
欠席委員: 笠毛(九州電力) (計 1 名)  
オブザーバ: 真壁(東京電力 HD) (計 1 名)  
事務局: 飯田, 大村(日本電気協会) (計 2 名)
4. 配付資料  
資料 31-1 委員名簿  
資料 31-2 第 30 回保守管理検討会議事録(案)
5. 議事
  - (1)代理参加者の承認等  
事務局より代理出席者, オブザーバの紹介があり, 主査により承認された。代理を含めた本日の委員出席者数は, 規約上の決議の条件である『委員総数の3分の2以上の出席』を満たしていることが確認された。また, 資料の確認があった。
  - (2)前回議事録(案)の承認  
事務局より資料31-2に基づき, 前回議事録(案)を説明し, 承認された。
  - (3)JEAC4209/JEAG4210の改定について
    - 1) 前回議事から現在までの検討状況, 周辺状況  
主査より検討状況等について, 説明があった。
      - ・10/16の運転・保守分科会長との打合せで, 早い段階から分科会の意見を聞いておいた方が良いとのコメントをいただいた。
      - ・実用炉規則の性能規定化に対応した整備を電事連側で開始した。年内にPWR, BWRで作業し, 年度末までにまとめる。設備保全委員会傘下の定検高度化検討会で検討する。
      - ・11月中旬に検査WGが開催され, 保安規定の記載に関する電事連と規制庁との調整が公開の場で始める。規制庁が保安規定への記載を求めている内容は、

SSR-2/2の様に設計建設から運転保守等までの大きな流れの中で、PDCAが回っていることを示すことであると思う。今後、検査WGの動向も注視して、必要な事項を次回改定に反映することを検討していきたい。

- ・米国IPの和訳版等について、今日は全電力が集まる打合せがあるので、その場で、資料の共有の了解をとる。電事連および各社の了解を得たら、検討会で使うこととする。IPの和訳、各電力会社でのギャップチェックの結果がある。ギャップ分析をしているので、それが使えると考える。その分析を行いたい。IPについては担当の委員と主査で、検討の進め方を話しあって、検討会で検討する。全てはできないが、2/20の次回運転保守分科会で検討状況の紹介を行う。

## 2) 意見交換会の状況について

事務局より意見交換会の内容について、報告があった。

- ・鈴木主査から、原子力発電所の保守管理規程／指針の次回改定に向けた検討課題と見直しの方向性について説明があり、それに対して質疑応答があった。

### ○規格委員会の議事について

- ・可搬設備と大規模損壊対処設備について、規格化する場合は、運転・保守分科会担当ということであった。規格化について現在ペンディングである。運転・保守分科会、事務局を含めて、担当は決めきれないとのことであった。
- ・検査制度見直しについては運転・保守分科会が関係してくる。具体的にどのように行くかはまだ確定しておらず、検討継続中ということである。

### ○JEAC4209/JEAG4210の次回改定についての意見交換

- ・保全を効果的、効率的に行うことが重要。新規基準でSA設備や特重設備等設備の範囲が増えるが、保全のリソースは有限で、効果的、効率的な保全を志向しなければならない。
- ・経済性は重要であるが、文書には入れにくい。うまい表現にする必要がある。
- ・リスク情報を活用するのは良いが、リスクの検討方法、数字をどこから出してくるかについて、出てきていない。そこがいろいろ変りそうで不安がある。
- ・オンラインメンテナンスをすると、一時的にリスクが上昇する。許容範囲の検討をどこかでする必要がある。
- ・原子力学会の標準を作ったが、その後、実際に使おうという前にいろいろなことがあり、前に動いていない。アメリカでは、PRAのADEQUACYを決めるガイドがあるが、日本はないのが本質的な問題である。
- ・平成14年、品質保証の考え方が保安規定に取り込まれ、17年くらいに検査のあり方検討会の議論で生まれたのが長期サイクル運転であった。ただし、中越沖地震、東日本大震災で、とん挫した。国の検査の考え方が変わってくる中で、JEAC4209/JEAG4210は検査制度の変遷に適合する形で見直してきたが、一度おさらいをしてはどうか。
- ・3.11が起こる少し前に、オンラインメンテナンスで、当時のNISAと検討し、導入可能などころまで行ったかと思う。過去には手順書に近いものまで作成したので、何とかなりそうかと思う。

- ・JEAC4111 と JEAC4209 との関係については、大きな PDCA と小さな PDCA で、JEAC4111 は原子力安全に特化した大きな PDCA、その DO の中に保守管理、運転管理等があり、DO のプロセスの中が小さく PDCA が分かれている。CAP 等大きな意味でのリスクをどう使うかは JAC4111 側である。

### 3) IPについて

鈴木主査他よりIPに関する検討状況について説明があった。

- ・次回、方向性を纏めて提示する方向で進めている。現状、保守管理として大きなプロセスを変更するところはないと考えている。ただし、保全としてのコンフィギュレーションをどう確立していくかが課題。そのほか全般的には、リスク情報の活用、マージン管理、CAP等も重要な課題かと考える。
- ・コンフィギュレーションマネジメントについては、JANSIで目指すべき姿のガイドが作られて、それを受けて、電事連の中でサブタスクを作って、2020年までの対処、その後の対処、運転しているプラントと停止中の差別化等を、これから検討する。その情報を注視して、規格の中へ取り込むというやり方かと考える。

### 4) 今後の作業について

鈴木主査より今後の作業について説明があった。

- ・米国IPの検討を先行させて、今後規制庁から示される国内IPの検討準備を行いたい。
- ・前回、海外規格を分析する時に、4チームでおこなったが、今回も4チームで行う。
- ・2月20日分科会実施を前提で、検討した資料を公開する。

(4) 次回検討会 : 12/6(木)13:30～ 電気協会 4階 B会議室

以上